

第 106 回関西実験動物研究会 動物実験第三認証のその後

2. 「日本実験動物協会第 2 期実験動物生産施設等福祉調査」

上田 正次 (株)フェニックスバイオ宇都宮事業所)

社団法人日本実験動物協会が行う「第 2 期動物生産施設等福祉調査」は、日本実験動物協会会員もしくは日本実験動物協同組合組合員の実験動物生産施設（飼養保管を伴う関連業種および受託業務を含む）を対象に行う動物実験第三認証である。平成 21 年 2 月 20 日に受けた本調査について報告する。

調査を受けるにあたって、調査票（組織・体制、飼育管理、動物の健康管理、施設・設備、生活環境の保全、危害防止、記録管理、教育訓練、輸送・保管・販売、その他、生産施設、受託試験等を行う施設の 12 項目からなる 62 の設問に対して YES・NO で回答）と被調査施設の動物福祉に関する規程（動物実験規程、動物委員会規程、動物実験承認規程、組換え実験実施規則）を事前に提出した。また、調査当日は説明や質疑に必要な規程類、標準操作手順書、組織図、調査票の根拠リスト、視察が難しい場所を説明する写真集を準備した。これらは、被調査施設が訪問調査を受けるにあたり事前に点検すべき評価項目や準備すべき資料等を解説した調査ガイドラインに沿って行った。ガイドラインには準備すべき資料や設問の意味が具体的に解説してあり円滑に準備することができた。

訪問調査は、1 チーム 3 名からなる調査員（主査、委員、事務局）と被調査施設の責任者 3 名（所長、動物実験委員会委員長、実験動物管理者）が出席して、施設の概要説明、調査票の記載内容の説明と質疑、関係資料の確認、施設ツアーと写真による施設の設備状況の確認を順番に行った。調査結果を相互に確認した後に、主査調査員から暫定的な指導・助言を得た。訪問調査には実務で約 4 時間を要した。

3 月 5 日に調査の実施結果に基づく指導・助言等を文書で受け、3 月 11 日に指摘事項の改善内容等について期日を明記して具体的に回答した。4 月 24 日に「第 2 期実験動物生産施設等福祉調査結果報告書」をもらい、「実験動物の飼養保管施設として、調査事項のすべてが良好であり、実験動物福祉の観点から適切な管理・運営がなされている。」との評価を得ることができた。

本調査では、自己点検では気づくことが難しい事項を専門家から指摘してもらい改善すべき事項について具体的な助言を受けることができて非常に有用であった。

本調査の準備と訪問調査、指摘事項や改善点およびその後の運営状況等について紹介する。